

環境審議会での中間報告に対する意見と対応状況について

区分	意見(要旨)	対応状況
打越委員	・環境に配慮した暮らしをしている割合が低い若い世代に対して、環境に配慮した暮らしをしているかという意識を聞くだけでなく、具体的にこういうものをやっているのか、やっていないのか、それを分かりやすく提示しながら、実際の行動をあぶり出していくような調査や仕掛けが第4章の実施施策に入れ込んでいけないか。	答申(素案)20ページに記載しました。
	・環境教育の推進について、部局間連携で進めていることを分かるようにしてほしい。	施策の実施に当たり、留意します。
	・環境教育の財源に森林税を活用することを検討してはどうか。	今後検討します。
	・大気環境の保全について、「発生源としての自動車の排気ガスの規制」について検討できないか。	個別の排気ガス規制については、実施困難であると考えており、低公害車の普及等の施策により、対応します。
	・大型トラックなどが真っ黒な排気ガスを吐き散らしていることは良いことではないという認識を環境部局は持ってほしい。	個別の排気ガス規制については、実施困難であると考えており、低公害車の普及等の施策により、対応します。
大和田委員	・今の若い人は「ソーシャル」「社会問題」には関心があると聞く。その一つに環境問題があると言え、若い人の関心も変わるのではないか。「ソーシャル」「社会問題」に対する各世代の関心を調査した上で、基本計画の策定を進めてはどうか。	来年度以降の意識調査で設問を検討します。
備前委員	・欧州や中国で電気自動車の普及が拡大すると言われている。この点について、環境基本計画にどのように記載していくのか。	答申(素案)27ページに記載しました。
	・地熱などの未開の自然エネルギーについて、どのようにアプローチしていくのか。	適地での普及を推進します。
	・長野県らしい太陽光発電の普及ということをどのように打ち出していくのか。	屋根置き型などのより環境への負荷の少ない形態の導入を促進します。
福江委員	・環境基本計画の6つの柱について、それぞれの関係性が分かりにくい。図示するなど、関係性を分かりやすく示してほしい。	概要版等の作成に当たり、留意します。
才川委員	・計画の推進体制として、市町村に対する体制の取組が弱い気がする。市町村との連携について、取組姿勢を示す必要があるのではないか。	施策の実施に当たり、留意します。
加々美委員	・環境教育の推進について、どの部局が担当しているのか、わかるようにしてほしい。	施策の実施に当たり、留意します。
中山委員	・環境保全にはトレードオフ(例:太陽光発電の普及拡大⇔自然景観の悪化)が起きる。トレードオフについて、悪い点が出てしまうことを十分に考えた計画内容にしてほしい。	施策の実施に当たり、留意します。
	・今回の計画では、気候変動の適応策が小さくなっている感じがする。長野県の県土は高所が多くて、気候変動の影響を受けやすい場所であり、そういうことを踏まえて、今後の展開に向けた方針などを打ち出していくことが必要ではないか。	答申(素案)27ページに記載しました。
	・生物多様性に関わる人材がだんだん減ってきていることを踏まえ、環境保全研究所の機能強化に関して、生物多様性のことも考えて進めてほしい。	施策の実施に当たり、留意します。